

日本看護歴史學會 會報

日本看護
歴史学会
第61号
2014年1月15日

年頭所感 求められる“知”の時代

日本看護歴史学会理事長 川嶋みどり



今や、昔語りになった太平洋戦争は、72年前の日本海軍の真珠湾奇襲攻撃から始まりました。その後国民の多くが背負った苦痛と悲嘆の大きさは言葉には語り尽くせません。それ以上に、他国の人びとへの影響の大きさもはかり知れず、昨年（2013年）の第27回学術集会（京都）では、数枚のパネル（戦争と医の倫理を検証する会提供）の展示とともに「戦争と看護」をテーマに理事会セッションを開催しました。今回展示したパネルは、戦時という極限状況であったにせよ、生命の守り手であるはずの医療者が行った非人道的行為の記憶を古びさせず、犠牲になった方たちへのレクイエムの思いもこめた100枚以上のパネルのほんの一部です。改めて、国挙げて「非戦の誓い」をし、憲法にその旨を明記したことの重みを感じないわけには参りませんでした。

思えば、昨年の年頭所感も戦争を話題にしています。折しも選挙戦のさなかでしたが、耳にたこができて、平和だけは堅持して欲しいという強い思いを機会ある毎に伝えることは、戦争の空気を吸った者としての責務と考えるからでした。ところが何と新政権発足から1年も経たないうちに、暗い戦時をイメージする法律が力づくで国会を通過する状況を目の当たりにしました。この法が、全ての人々の基本的人権の不当な侵害への配慮がされていないこと、学問

の自由をはじめ、あらゆる研究や言論を制限するなどの問題点などについて、科学者、文学者、芸術家、宗教家、各種のメディア、そして多岐にわたる団体や個人の懸念や不安を無視した強行でした。歴史学研究の分野でも、オーラルヒストリーの手法自体が罪に問われる場面も起きることを指摘した学者の反対の声もありました。歴史研究団体、アーカイブス関連学会等の緊急声明も出され、反対署名は3000名にのぼっているといえます。看護歴史学の立場からも、真実を探求する歴史学研究が妨げられる恐れの高いこの法を黙認すべきではないと考えます。

既に法案は通過しましたが、このまま成り行きに任せてよいとは思えません。これからの国の行方を左右するかも知れないことを思うと、一市民としても強い関心を持ち続けなければならないのではないのでしょうか。その際、何が起きているかを「知っている」だけでは事足りず、人間として看護師としての感性で「おかしい！」と直観したことを、しっかり客観的に見据えた「知の働き」が求められます。その知とはく知性>です。時の流れを注視した上で理性的に判断し、的確な行動を導く知性を集めて、たとえ相手が多数でも、行ってはならない道を阻み迷っていたら手を差しよべるのです。東日本の被災地も3度目の冬を迎えます。時を経るにしたがって人間の記憶は定かではなくなるのが常ですが、決して忘れてならない事柄や出来事は、語り伝え、記録することが歴史研究の第1歩であることを思う新年の初頭です。

午年の2015年、穏やかな地球であることを願いながら、みなさまに新年のご挨拶を申し上げます。

今年の「よい事」

日本看護歴史学会副理事長 芳賀佐和子

新年に思い出す歌があります。

何となく、
今年はやい事あるごとし。
元旦の朝晴れて風無し。

この歌は明治43年暮れ、石川啄木が24歳の時に詠んだものです。この年、様々な苦しみを経験した啄木の心からの希望ではないかと推察します。

会員の皆様には、新しい年の初めにあたり、「今年はやい事」という思いを新たにされている事と存じます。

ここで、日本看護歴史学会の今年の「よい事」をお届けいたします。

日本看護歴史学会は、1987（昭和62）年に亀山美知子先生達の熱い志のもとに設立されました。学会では年1回の大会および総会の開催、機関誌「日本看護歴史学会誌」の発行、会員による分科会活動などを開催し、看護の歴史を探求し、人的・知的交流を図ってきました。

そして、看護歴史に関する学術的資料をめざして、2008年11月に『日本の看護120年—歴史をつくるあなたへ』を日本看護協会出版会から出版しました。この本は、日本看護歴史学会創立20周年記念事業の一環として執筆されたものです。本の執筆にあたっての最大の難点は史料探しであったと聞いています。そこで、2009年からその年の看護会の出来事を資料（将来、史料となる）として毎年記録に残し、『日本の看護120年』を改訂する準備をしてきました。毎年の学術集会の折には、理事会主催のセッションをもち、皆様との意見交換も行いました。

本の改訂作業は昨年から本格化しました。改訂にあたっては、まず、本発行後皆様からいただいたご意見を一つ一つ検討し確認しました。そして、編集方針を引き継ぎ、

新たに「地域・在宅看護」「男性看護職の近現代史」の章を設け、看護の発展過程に対応できるよう配慮しました。本のタイトルにつきましてはいろいろな意見がありましたが、『歴史をつくるあなたへ—日本の看護のあゆみ』に決定しました。現在、今年の4月の発行をめざして校正作業を繰り返しています。どうぞ皆様、本が発行されました折にはお手にとりご覧いただきご意見をお寄せください。

改訂作業を通して、史料を保存する事の大切さを痛感するとともに、時代背景や事実関係の読み取り、自身の歴史認識などにより史料をどのように解釈するかが問われることを実感いたしました。

2つ目は、今年の学術集会在初めて岐阜で開催される事です。9月6日と7日、第28回学術集会は「今、語りつく看護技術の教育」をテーマに滝内隆子学術集会长のもと岐阜大学で行われます。ここでは交流を通して歴史研究の輪がさらに広がることを期待します。

そして、今年も自分にとっての「よい事」を自ら創造しながら楽しく、健康に日々を過ごしてまいりましょう。



日本看護歴史学会第27回学術集会を終えて

第27回学術集会会長 岡山寧子

日本看護歴史学会第27回学術集会を無事に終えることができました。会員の皆様はじめ、ご参加下さいました多くの方々のご支援とご協力に感謝し、厚くお礼申し上げます。おかげさまで、参加者は2日目の公開歴史講演会の一般の方々を含めると約300名と、予想を上回るにぎやかな学術集会となりました。

この学術集会は、6年ぶりで6回目の京都開催ということで「今、京都から何が発信できるのだろうか」にこだわって準備をすすめてきた感がありました。1日目のご講演では、京都府立医科大学の看護教育のはじまり、京都初の看護の高等教育のはじまりとして京都市立看護短期大学での教育など、明治時代から現在に至る京都における看護の足跡をたどっていただきました。いずれもメインテーマ「京都発、近現代における看護の礎を探る」に熱く迫るものでありました。

特別講演の藤田哲也氏（元京都府立医科大学学長）による「明治維新と日本近代医学のあけぼの～京都府立医科大学の創設をめぐる～」では、幕末戦時における西洋医学の威力が日本の医学教育の発展に繋がりを、その上に府立医大創設があることをわかりやすく解説くださいました。

その中で、「赤十字」の印は、府立医大

が日本で初めて使用したという事実をお示しになり、会場には当時の十字の模様入りのランプを展示しました。講演後は、研究発表25題、テーマセッション2題、理事会3題、ワークショップ1題と盛りだくさんの内容となりました。懇親会までタイトなスケジュールでしたので、十分議論する時間が足りなかったようで、少し残念なことだったと思います。

2日目は会場を新島会館に移し、NHK大河ドラマ「八重の桜」の新島八重に焦点をあて、まず彼女の足跡について、ドラマでも歴史的指導をされた本井康博氏（元同志社大学）に、次いで篤志看護婦としての八重について川原由佳里氏（日本赤十字看護大学）にご講演いただきました。彼女の「ならぬものは、ならぬのです・・・」の力強い人生、そして看護の足跡の一つの線上に八重の存在があることを改めて知りました。何よりも、その後の八重の大河ドラマを100倍以上楽しむことができるようになったのは私だけではないと思いますが、いかがでしょうか。

京都で始まった日本看護歴史学会も27回目を終え、来年開催の岐阜の地にバトンタッチです。学会のますますの発展を心から念じております



特別講演 藤田哲也先生



懇親会にて 川嶋理事長と学術集会スタッフ

第28回学術集会の開催について

学術集会長 滝内隆子

日本看護歴史学会会員の皆様、新しい年をお元気に迎えられたこととお慶び申し上げます。今年の第28回学術集会は、2014年9月6日(土)・7日(日)、岐阜大学(岐阜)で開催します。今回の学術集会のメインテーマは「今、語りつぐ看護技術の教育」です。

近年、看護基礎教育の卒業時における学生の看護技術力の低下と併せて看護教員の看護技術力の低下が指摘され、これらの解決策として学内演習における臨床看護師との協働による看護技術教育の実施が厚生労働省から打ち出されています。しかし、本来、教育内容に責任のある教員には、学生にモデルとして提示できるだけの看護技術力が備わっているべきだと考えています。そこで今回、教員・学生ともに高い看護技術力が備わっていたと考えられる占領期に看護技術の教育を受けた方々を始めとして、その教育を受け継いでこられた先輩諸氏に、これからの看護技術教育への示唆を含めて語り継いで頂きたいと思っております。

また、岐阜の地で日本看護歴史学会を開催するのは始めてです。そのため岐阜県の特徴が出るように「鶺鴒い」、「内藤記念くすり博物館」に関する内容、学校看護婦と

しての「廣瀬ます」のことを含めて「岐阜県における養護教諭の歴史」等も企画しております。さらに、若い世代に看護歴史への関心・興味を持って頂けるように「ヒストリー・カフェ」として、ナイチンゲールの講演も企画しております。

日本一暑い市で有名な多治見市も岐阜県です。学術集会開催日は9月とはいえ、まだまだ残暑厳しい岐阜ですが、夕涼みに鶺鴒舟に乗船して「鶺鴒い」を鑑賞する楽しみ、少し遠出になりますが世界遺産の「白川郷」で昭和の風景を合掌造りとともに懐かしむ楽しみもあります。

今回の第28回学術集会は、少人数の企画委員・実行委員での運営になりますので、十分に行き届かない点も多々あるかとは思いますが、皆様のご指導・ご協力を得て、「おもてなし」の心で精一杯準備を進めて参ります。一人でも多くの方々のご参加・発表を心からお待ち申しあげております。

〈お問い合わせ先 第28回学術集会事務局〉


〒501-1194 岐阜市柳戸1-1

岐阜大学医学部看護学科内

TEL・FAX 058-293-3242 (竹下)

e-mail takeshit@gifu-u.ac.jp

〈2014年 第28回日本看護歴史学会 学術集会プログラムの案内〉

6日 (土) 9:30~ 16:20	9:00~	開場・受付開始		特別展示「江戸に学ぶからだ養生」 
	9:35~	会長講演	「占領期の看護技術の教育—現在の看護技術の始まり—」 滝内隆子(岐阜大学医学部看護学科教授)	
	10:30~	シンポジウム	「語り継ぐ看護技術の教育」シンポジスト:川嶋みどり(日本看護歴史学会理事長), 阿曾洋子(武庫川女子大学看護学研究科設置準備室 室長), 石井範子(秋田大学大学院医学研究科教授)	
	12:10~	総会・昼食		
	13:00~	教育講演 I	「戦後の教育改革」新海英行(名古屋柳城短期大学学長)	
		理事会セッション I	(未定)	
	14:10~	研究発表	示説	
		テーマセッション I	「次世代につながる看護」紀ノ定保臣(岐阜大学医学部医療情報学分野教授)	
	16:20	閉会	示説・口演	
17:30~	懇親会	鶺鴒の家「すぎ山」・鶺鴒見物(事前申込制、定員100名)		
7日 (日) 9:30~ 12:00	9:00~	開場・受付開始		
	9:30~	一般公開プログラム	特別講演 I 「江戸に学ぶからだ養生」伊藤恭子(内藤記念くすり博物館学芸員)	
		教育講演 II	「岐阜県における養護教諭の歴史」近藤真庸(岐阜大学地域科学部教授)	
	10:40~	理事会セッション II	(未定)	
		一般公開プログラム	特別講演 II 「鶺鴒い」 杉山雅彦(鶺鴒)	
	11:40~	閉会	「ヒストリー・カフェ」佐々木秀美(広島文化学園大学副学長) 当日先着順80名	

追悼・大石先生

研究者であり、学会組織の革新者である 大石杉乃先生を悼む

日本看護歴史学会理事 高橋みや子



故 大石杉乃先生

大石先生は、第11回大会（1997、京都）放談会「保助看法制定当時を振り返って」の導入に原史料・証言を駆使した「GHQに関する研究報告」を行い、彗星のように登場しました。

さらに、第16回大会（2002、山形）特別講演「第2次世界大戦後の看護改革推進者オルトを語る－看護改革にかけた情熱－」で研究の喜び愉しさを情熱的に語りかけ、深い感銘を与えました。その後、「戦後日本看護改革－封印を解かれたGHQ文書と証言による検証」（2003、8、共著、日本看護協会出版会）、「バージニアオルソン物語－日本の看護のために生きたアメリカ人女性」（2004、10、単著、原書房）を上梓されました。

2004年以降、①「第二次世界大戦後の看護改革に関する研究」②看護歴史で初の大型研究「ゴードン・W・プランゲ文庫所蔵検閲史料の分析による占領下日本の医療・看護の状況とGHQによる検閲の実情に関する研究」に着手され、毎年、精力的に訪米調査を行い、その成果を学会又はCD等で着々と公開し始め、将来、「大型図書」と待望されていました。

学会活動においても大石先生は、2002年より会報発行（38～50号）責任者。2005年理事就任と同時に「日本看護歴史学会創立20周年事業プロジェクト委員」の編集委員・執筆者（外国看護の移入・戦争と看護の2章）として活躍し、「日本の看護120年－歴史をつくるあなたへ」（2008、11、日本看護協会出版会）を上梓。一方、理事長補佐・情報システム担当とし写真パネル「日本の看護百年」をCD化し、又学術集会時の理事会セッション「看護界の出来事」を創設運営する等、八面六臂の活躍でした。

大石先生は、精力的に研究と学会の革新を成し遂げ、2013年9月9日、彗星のように去られました。我々は、先生の歴史研究と革新への精神と情熱、さらに推進する意志を継承して行かねばならないと思います。

六史学会に参加して

昨年度までは「日本医史学会」「日本歯科医史学会」「日本薬史学会」「日本獣医史学会」「日本看護歴史学会」による五史学会でしたが、今年度から「洋学史学会」の参加により六史学会になりました。この六史学会の合同12月例会が2013年12月14日（土）順天堂大学で開催されました。

各学会からの発表演題は以下の通りで、1題30分の発表と5分の質疑応答で進行しました。

日本獣医史学会：

山田章雄「One Healthの潮流」

日本歯科医史学会：竹原直道「歯科医院があった街角－東アジア編」

日本看護歴史学会：滝内隆子「占領期にお

岐阜大学医学部看護学科 滝内隆子

ける看護技術教育－使用されたテキストと当事者の証言から－

洋学史学会：小澤健志「佐賀藩が安政五年に購入したオランダ語の医学書について」

日本医史学会：三浦恭定「祖父 三浦謹之輔の思い出」

日本薬史学会：八木澤守正「我国における抗生物質医薬品の発展」

今年度始めて六史学会の合同例会に参加しましたが、30分の発表時間は興味深い内容であったため、あっという間に過ぎ、質疑応答も分野を超えて活発であり、そして何よりも暖かい雰囲気にも包まれた学会でした。

日本看護歴史学会学術集会決算報告

【お詫び】

学術集会の決算報告は、平成23年度以降、会報から学会誌に掲載先が変更される予定でしたが、掲載されていないことが判明しました。そこで取り急ぎ、今回の会報に第25回学術集会と第26回学術集会の決算報告

を掲載させていただきます（第27回学術集会決算報告は学会誌第27号に掲載いたします）。関係者および会員の皆様にはご迷惑をおかけしたことを、ここにお詫び申し上げます。（事務局）

日本看護歴史学会第25回学術集会決算報告 (平成23年8月26日・27日、沖縄県立看護大学にて開催)

収入の部

収入費目	決算額	備考
学会からの補助金	200,000	
参加費	1,394,000	事前申込（一般）7,000円×120名、学生1名 当日参加（一般）8,000円×69名
講演集販売	8,000	8冊
広告・展示料	20,000	1件
寄付	60,000	会員2名より
収入合計	1,682,000	

支出の部

支出費目	決算額	備考
学会への補助金返済	200,000	
人件費	264,000	事務局運営、事務等
郵送費	88,580	演題募集・依頼文書・御礼状等の発送等
会議費	60,601	企画委員会、実行委員会、プログラム委員会、事務局会議
印刷費	375,695	文書・封筒・チラシ・講演集・参加証等
機材借料	66,540	学会用機材のレンタル料
謝金・交通費	92,690	講演講師等
記念品費	55,000	講師、座長、委員、ボランティア等
消耗品費	220,688	文具、盛り花、委員・ボランティア弁当代等
その他	55,630	テープおこし代
寄付	202,576	震災基金へ（152,576円）、学会へ（50,000円）
支出合計	1,682,000	

日本看護歴史学会第26回学術集会収支決算報告
(平成24年8月26日・27日、日本赤十字看護大学にて開催)

収入の部

収入費目	予算額	決算額	備考
学会からの補助金	300,000	300,000	
参加費	1,295,000	1,485,500	事前申込(会員)7,000円×74名 (非会員)8,000円×17名 当日参加(会員)8,000円×51名 (非会員)9,000円×47名 (学生)500円×1名
講演集販売	5,000	14,000	14冊
懇親会参加費	240,000	210,000	3,000円×70名
参加者お弁当代	200,000	35,000	1,000円×35名
広告・展示料	150,000	170,000	
寄付	0	45,000	会員2名から25,000円、 出版社から20,000円(花代)
図書販売手数料	0	6,106	日本看護協会出版会から
収入合計	2,190,000	2,265,606	

支出の部

支出費目	予算額	決算額	備考
学会への補助金返済	300,000	300,000	
施設・会場設営費	350,000	333,000	会場使用料
準備・当日運営費	280,000	252,100	アルバイト代、スタッフお弁当代
会議費	70,000	110,116	会議室使用料、交通費、お弁当・茶菓子代
通信・運搬費	120,000	134,080	HP作成費、メール便代、切手代、 振込手数料
印刷費	300,000	335,875	チラシ、講演集、封筒
講演謝金	250,000	410,000	特別講演、シンポジウム、コーラス、 テーマセッションI
記念品費	50,000	63,067	ストラップ、マグカップ
雑費	30,000	23,095	文具、花代(20,000円)
懇親会経費	240,000	180,000	
参加者お弁当代	200,000	35,000	35食
寄付	0	89,273	日本赤十字社へ(50,000円)、 学会へ(39,273円)
支出合計	2,190,000	2,265,606	

第10期理事・監事選挙の公告

2013年8月31日の総会で、第10期理事・監事の改選が確認されました。これにより「日本看護歴史学会理事および監事選挙規則」に基づき、本会報の発行日をもって理事・監事選挙公示日といたします。

投票期間は発行日より2014年3月15日(当日消印有効)までとなります。投票用紙は別途郵送のものを使用し、理事(10名)・監事(2名)に相応しいと思う会員に印をつけ、無記名の封筒に入れ、投票所宛での

封筒にて、郵送してくださるようお願いいたします。

選挙管理委員会氏名

総会場で選出された選挙管理委員は次の通りです。

大川美千代氏

鈴木 紀子氏

遠矢 早苗氏 (五十音順)

なお、規則により、選挙権は会費を(今年平成24年度)期日までに完全に納入した人、被選挙権は、入会3年を経過し、会費を完全に納入した人に与えられます。

新入会員紹介(敬称略)

* () 内は会員番号 平成25年7月～平成25年11月入会

大島 弘子 (13024)	河村 治代 (13025)
風間 栄子 (13026)	梶間 和枝 (13027)
屋宜譜美子 (13028)	今井 七重 (13029)

お知らせ

■事務局から

平成25年度会員動向(平成25年11月30日現在)

- | | |
|-------------------|------|
| 1. 会員数(特別会員1名を含む) | 368名 |
| 2. 入会者数 | 29名 |
| 3. 退会者数 | 4名 |

会費納入のお願い

平成25年度会費(6,000円)をまだ納入されていない会員の方はすみやかに納入をお願いいたします。事務局からお送りした払込取扱票を紛失された場合は、郵便局にある払込取扱票に口座番号「01010-1-52185」、金額「6000」(ただし、2年分未納の場合は12000)、加入者名「日本看護歴史学会」、通信欄に「会員番号」、ご依頼人の欄に「郵便番号・住所・氏名・電話番号」をご記入いただき、窓口かATMで払い込みください。3年間会費滞納の場合、退会となり会員資格を失いますのでご注意ください。

所属・住所変更や退会の場合

所定の変更届や退会届(本会ホームページからダウンロードできます)を事務局にご提出ください。

学会誌投稿論文の送り先

投稿論文の送り先は事務局(日本赤十字看護大学)ではありません。また、編集担当の田中幸子理事の所属が変更になりましたので、送り先は、〒182-8570 東京都調布市国領町8-3-1 東京慈恵会医科大学医学部看護学科 田中幸子(日本看護歴史学会誌編集委員会)宛となります。お間違えのないようお願いいたします。

学会誌バックナンバーの販売

事務局が保管している学会誌と学術集会講演集のバックナンバーを会員・一般の方に販売しています。詳しくは学会ホームページをご覧ください。

編集後記

本年は、日本看護歴史学会にとっては大切な理事選挙の年でもあります。この節目の年、学会、そして会員の皆様にとって幸多き1年となることを祈念いたします (会報担当:小田・鷹野)

日本看護歴史学会会報 第61号

企画・編集 小田 正枝(国際医療福祉大学)
鷹野 朋実(日本赤十字看護大学)

発行責任者 山崎 裕二(日本赤十字看護大学)

印刷 株式会社 新和印刷

事務局 〒150-0012

東京都渋谷区広尾4-1-3

日本赤十字看護大学

山崎 裕二

TEL 03-3409-0613

e-mail yamazaki@redcross.ac.jp

川原由佳里

TEL 03-3409-0185

FAX 03-3409-0589(代表)

e-mail kawahara@redcross.ac.jp

学会HP <http://plaza.umin.ac.jp/~jahsn/>